

外国人技能実習生を用いた産業振興 ～企業と技能実習生の双方にとって、技能実習制度がより価値あるものに～

Foreign technical trainees for industrial reconstruction
～Make the foreign technical intern trainee system more valuable for foreign
technical trainees and companies～

Team OMNIBUS

高山優果¹⁾、木場瑛穂¹⁾、西山良美¹⁾、小早川桜¹⁾、疋田陽子¹⁾、古市秀生¹⁾、井上歩泉¹⁾、松田哲平¹⁾
指導教員 準教授 安田賢憲¹⁾

1) 創価大学経営学部経営学科 安田ゼミナール

キーワード：外国人技能実習生、外国人技能実習制度、オンライン教育

1. 初めに

近年、中小企業の人手不足が深刻な課題として注目されており、解決策の一つとして外国人技能実習生を雇用する企業が増加傾向にある。実習生の人数は、厚生労働省(2018)によると、実習生は過去10年間で約2.8倍増加し平成30年度では32万に達し、今後も確実に増加すると指摘している。2019年現在、八王子市では67%の介護職種の事業所が人手不足を感じており、既に数年前から介護技能実習生を受け入れるなどしている。今後、八王子市に集積するものづくりや物流系の中小企業でも実習生を採用する傾向は強まると予想される。

しかし後述する通り、実習生の技能習得度は日本人と比較して低いことから事業所の人手不足を解消できているとは言い難い。そこで、私達は「外国人技能実習生と彼らを雇用する企業の双方にとって技能実習制度をより価値あるものに」することを目指す。

2. 現状

外国人技能実習制度の目的は、1つ目に技能実習生が技能を日系企業で身につけ、母国へ帰国した際に、母国の発展に資すること、2つ目に日系企業が実習生を雇用することで人手不足を解消することの2つである。しかし現在、実習生の能力不足により、企業の目的である人手不足の解消が十分に

達成できていないという声は少なくない。

見崎(2018)によれば、実習生の技能習得度は日本人を10とした場合、平均で5.2であるとし、実習生が技能を十分に身につけられていないと指摘する。さらに見崎(2018)は「技能習得を向上させるためには日本語能力を伸ばすことが効率的である」と指摘しており、実習生の技能習得度を向上させるには、実習生の日本語能力を向上させることが極めて重要と言える。

私達は、実習生の日本語レベルと企業が彼らに任せる職務の関係性を確認すべく企業への取材依頼を782回(10/23現在)を行い、その中で、①「実習生の日本語能力が向上したらより多くの仕事やレベルの高い仕事を任せたい」と回答した企業が87.5%、②「実習生に複合作業(業務工程が複数あり、日本人の労働者が主に行う作業)を任せたい」と回答した企業が66.7%という調査結果を得た。

以上の調査結果から、実習生の日本語能力向上は実習生の技能向上につながるだけではなく、企業の期待に資すると思われる。それ故、私達は実習生の技能習得度を向上させるために日本語能力を向上させる施策を提供する。

3. 提案

上記の問題を改善するための施策として私達

は、「Japanative」を提供する。これは3つのサービスからなる。

1つ目がメンター制度である。メンター制度は、日本語のアウトプットの場を提供する、マンツーマンの日本語での会話サービスである。また、実習生それぞれの日本語レベルに合わせたカリキュラムを作成、提供していく。また、会話の内容は、実習生のレベルによってカスタマイズし、仕事場で従業員とコミュニケーションをとる際に問題が起きないような日本語能力向上へと繋げる。

2つ目は、Japanative カードである。このサービスは図表1に示したように、左のピンクの枠で囲われた説明カードと意味の一致した道具を、右のイラストカードから選択するというクイズ形式のカードゲームであり、実習生の専門用語のインプットの場を提供する。これはリーディング力とリスニング力を鍛えながら実際に現場で使用されている専門用語や、技能検定で出題される専門用語を覚えることを意図している。

【図表1 Japanative カードのイメージ図】

3つ目は、チェックテストである。このサービスは、日常的な日本語のレベルと専門用語のレベルのチェックテストであり、実習生の日本語と専門用語の能力を可視化する。前者のチェックテストは、メンター制度で実習生が苦手だと判断した日本語をピックアップする。また日本語検定試験の対策の問題も記載する。後者のテストは、Japanaitive カードで出題された用語を基準とし、技能検定の学科問題に関連した専門用語や、実習生が就労している企業で使用される専門用語をチェックする。



4. 現在の進捗状況

私達は、将来的に技能実習生度が対象とする

88職種144作業の全てを網羅したサービスにしたいと考えている。その実現に向けて現時点で7職種のカードゲームならびに日本語能力や専門用語に関するチェックテストを開発している。また、これらサービスのブラッシュアップのために18社の企業にご協力頂き、24名の実習生に使用してもらい、継続的にフィードバックをもらっている。なお、この内2職種、2社、実習生2名は、八王子に在籍である。

私達は、このサービスを2021年4月から本格的に提供したいと考えている。今後5年間で329社の企業、987名の実習生にJapanativeを使用してもらうことを目標に活動を続けていく。

5. 行政への提案

私達がこうした取り組みを実施する上で、以下の点を提案させて頂きたい。

1つ目に、実習生に対して日本語教育を提供する事業への助成である。既に介護分野では実習生の日本語能力の向上を支援する事業者を助成する取組みが政府主導で行われており(厚労省2018)、このような動きは拡大すると予想される。また、こうした取り組みは社会福祉の観点からだけでなく、八王子市の産業振興にもつながると思われるため、ぜひ前向きに検討して頂きたい。

2つ目に、実習生を雇用している八王子市内の事業所を紹介して頂きたい。私達は現在、監理団体から企業を紹介していただいているが、さらに多くの実習生に本プランを実施してもらうことで外国人技能実習制度の価値向上を目指し、そのことをもって人手不足に悩む八王子市に企業に貢献したいと考えている。